

交野古文化同好会・歴史健康ウォーク

令和7年3月8日（土）

講師：青山洋二

行 程

京阪郡津駅（午前9時集合）→（1）古代条里制五条通碑 →（2）東高野街道→（3）府道18号（枚方・交野・寝屋川線）→（4）新天野川橋→（5）天野川左岸の堤塘→（6）新磐船街道と合流点→（7）縄文時代の遺構と遺物→（8）府道148号（木屋～交野線）→（9）本尊掛松跡→（10）上ノ山の辻→（11）関武駐蹕記念碑→（12）大型掘立柱建物跡→（13）私部（上ノ山）の南端迄の街道→（14）逢合橋→（15）交南高等小学校跡



① 古代条里制 五条通碑

大化の改新（645）以後の大改革で、公地公民制となり、口分田を配分するため、土地を条里制により区画する。郡ごとに耕地を6町（654m）間隔で縦横に区切り、その列を条（6町平方）の一区画を里と呼び、一里はさらに一町間隔で縦横に区切って、合計36の坪とした。交野郡では私市の天田宮から西へ向う一条通から、北の天野川下流である枚方市禁野の十条通りまで区画した。この碑は、ほぼ中央の五条通りです。



②東高野街道

京都から高野山に参る高野街道のうち、石清水八幡宮から、生駒山西麓を通り、河内長野に至る約50kmが東高野街道と呼ばれる。平安時代には、河内を南北に縦貫する道として利用していたと思われる。市域では郡津から星田までの区間が該当する。



③府道18号（枚方・交野・寝屋川線）

60年前に府道は完成で、現在南の梅が枝住宅と北の松塚住宅との間には、街道はない。終戦直後の米軍航空写真と現在の道路地図を重ね合わせると、終戦当時は現府道の北側に小円弧が突出する。現在も北側に空地があって、住宅裏が建ち並んでいて、この空地の北縁に街道があったのではと思います。写真の左側の高架は、府道が京阪電車を越えるため、跨線橋で西の堤塘から東の交差点迄は、約500mです。



④新天野川橋

写真は天野川左岸の南側より望む（新天野川橋）。街道はその橋あたりを渡って、左岸の堤塘を南へ150m程行く。街道の稀な景色です。府道等が天野川を渡る橋には、それぞれ名前がついている。この橋の上流次の橋は＜逢合橋＞七夕伝説で、その次が＜天の川七夕橋＞第二京阪国道が渡り、＜交野橋＞は、府道736号が渡り、＜天野川橋＞は、府道154号が渡り、次の＜私市橋＞は、妙見口から磐船街道の私市4丁目交差点を結ぶ橋です。



⑤天野川左岸の堤塘

左岸を150m南に来ると、街道は右方向（南西）へゆっくりと下って行くが、両側は新しい住宅が建っている。ここは枚方市茄子作東町で、300m余りの街道は拡幅されて、新磐船街道に繋がる。この街道は徐々に堤塘から離れていくので、その分宅地が広がり、街道から堤塘に伸びる枝道が数本築造され、密集した住宅街となっている。



⑥新磐船街道と合流点

茄子作東町の住宅地をぬけて、第二京阪国道と同時期に新しく築造された新磐船街道（現在は北の府道18号と第二京阪国道を繋ぐ）との交差点である。（写真の前方に第二京阪）。この交差点より南方向（オリーブ美容室）の西側迄約180m行くが南東方向の新磐船街道に、130m程被せられて、東西の府道（木屋・交野線）の手前50mあたりから、街道は蘇ってきた。



⑦縄文時代の遺構と遺物（上ノ山遺跡）

新磐船街道に被せられた高野街道が再び姿を見せる位置からレジメ⑥の交差点を振り向く、新磐船街道の工事前発掘調査で、縄文時代の遺構と遺物が発見された。縄文時代後期（15,000年前～2,300年前）の土坑が約200基で3種類の大きさ（直径30cm前後～1m前後）で、柱の痕跡が多数確認され、土坑の中に土器を据えた埋甕（うめがめ）遺構・縄文時代の墓である。



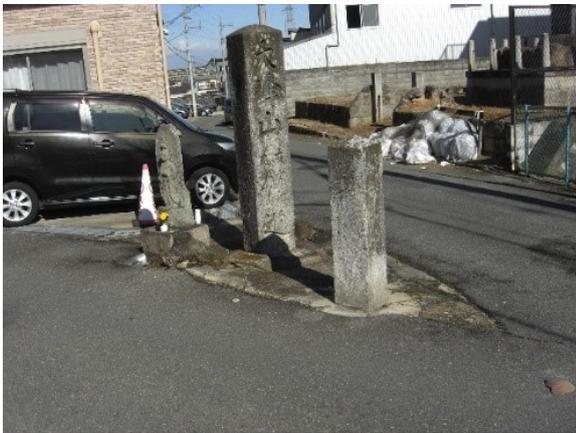
⑧逢合橋西道り府道の交差点

⑦の交差点から南へ 40m進むと、逢合橋から西へ向かうバス通り(府道 148 号木屋・交野線)の交差点に出る。この道は昔の「交野街道」で現在の(府道 18 号 枚方交野寝屋川線)が天野川の西手前で右に折れ、逢合橋を渡って来た。枚方丘陵の南は平坦で、守口方面から交野までの街道があった。その手前の東高野街道は、新磐船街道に被せられました。



⑨本尊掛松跡

⑧の交差点から南へ 200m右手に玉垣の中に立派な地蔵と松の木が、「本尊掛松跡」。700 年前の元亨元年、大念仏宗の中祖七世「法明上人」は、男山八幡神の霊夢を受け、深江から男山へ向かう途中、同じ霊夢を受け霊宝を届けんと、八幡宮の一行とここで出会い、十一尊天得如来の画像を授かった。上人はこれを側の松に掛け念仏を唱えると感激のあまり踊りだした。これが同宗の念仏踊りの始まりです。



⑩上ノ山の辻

天野川と東高野街道の間の一帯を、古い地名「上ノ山」と云います。逢合橋西南のこんもり台地は、「上ノ山の辻」で東高野街道と、北東から上ってくる山根街道が合流します。そこには私部村地蔵講中が、1725 年建立の「上ノ山地蔵」が立っている。地蔵の側の二つの道標は、「大峰山道標」1855 年建立と「大阪府道標」1904 年(明治 37) 建立です。京や八幡、宇治、津田、星田停留所等への案内です。



⑪関武駐蹕記念碑

星田の第一御野立所「大正天皇行幸記念碑」から、上ノ山の第二御野立所「関武駐蹕記念碑」のところへ移られて、天皇は大正 3 年(1914)ここからも陸軍特別大演習の状況を統監された。この演習は明治 25 年から昭和 11 年迄(45 年間)年 1 回行われ、両軍に分かれての大規模な模擬戦は、天皇が審判長を務められた。この少し前に日本は、第一次世界大戦に参戦したこともあり、白熱した演習となった。(昭和 3 年 11 月建立)

⑫上ノ山遺跡

東高野街道と第二京阪の交差部の西（コンビニの北側）で、弥生時代中期前半（約 2200 年前）に建てられた、独立棟持柱を持つ「大型掘立柱建物」の跡が、道路工事前の調査で見つかりました。平成 17 年 3 月の新聞では「集落の中心施設で、弥生最古級の神殿跡？」と報道されて話題になりました。梁間 4.5m、桁行 8.6m、床面積 39 m²（約 12 坪）です。



独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物
復元イメージ図



⑬私部（上ノ山）の南端までの街道

街道はレジメ⑩から南に下り、コーナンの東側で府道 20 号（枚方・富田林・泉佐野線）と第二京阪を斜に渡り（被せられ消失）コンビニの東に拡幅された道が、南へ 210m で工場敷地に突き当たる。その手前約 25m 迄が（上ノ山）で、星田北との境です。突き当たりから真っ直ぐ 120m で少し西に折れた所で、星田集落の中心から星田共同墓地に向う南からの道と合流して、西南へ工場敷地を抜け、再度府道を斜横断して、すぐ星田共同墓地から星田駅に向う。

⑭逢合橋（あいあいばし）

宝暦 12 年（1762）「河州交野郡私部村田畑絵図帳」によると、この橋の名は「天の川七夕橋」と表記されている。現在の橋は昭和 52 年（1977）に出来た。七夕の夜、機物神社のく織姫>と、枚方茄子作の中山観音寺の（彦星）とが、この橋のたもとで、恋こがれて一夜逢われると言い伝えられている橋です。



⑮交南高等小学校跡

天野川東堤、逢合橋の北側に、明治 18 年（1885）私部、茄子作、星田等 10 の小学校を統合した交南小学校があった。その後小学校令の改正で尋常小学校と高等小学校に分離した後、再び尋常高等小学校として統合される明治 20 年（1887）から 大正 8 年（1919）まで高等小学校として利用した。

